

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

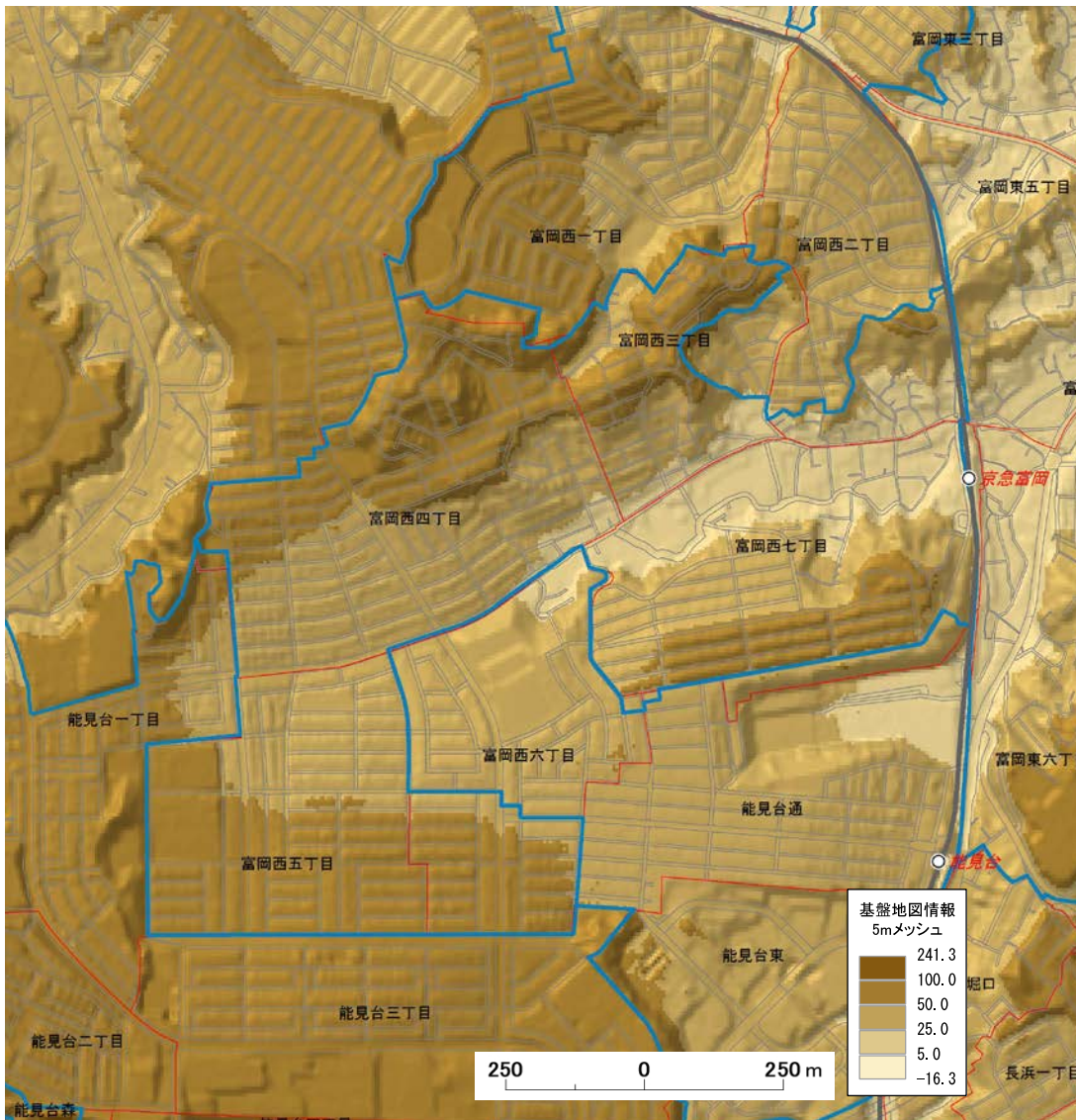


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	10,450	10,399	10,235	▲ 51	▲ 164	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	1,270	1,212	1,146	▲ 58	▲ 66	11.7	11.2	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	393	423	392	30	▲ 31	4.1	3.8	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	6,507	6,202	5,929	▲ 305	▲ 273	59.6	57.9	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	511	478	535	▲ 33	57	4.6	5.2	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	1,831	1,565	1,328	▲ 266	▲ 237	15.0	13.0	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	2,729	2,985	3,160	256	175	28.7	30.9	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	1,405	1,355	1,367	▲ 50	12	13.0	13.4	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	1,324	1,630	1,793	306	163	15.7	17.5	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	4,393	4,523	4,660	130	137				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.38	2.30	2.20					2.29	2.10

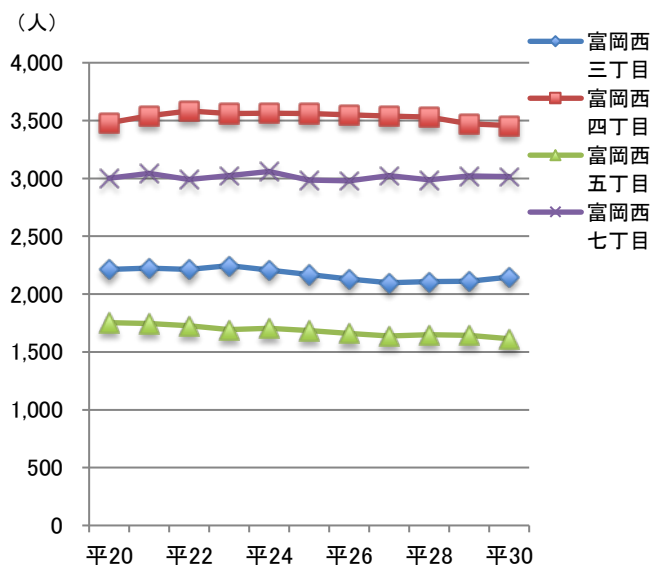
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



富岡第三地区には、平成30年9月現在、約10,240人が暮らしています。世帯数は、約4,660世帯、平均世帯規模は、2.20人/世帯です。(表1参照)

平成25～30年の期間で見ると、人口は緩やかに減少しています。一方、世帯数はゆるやかに増加しています。(表1参照)

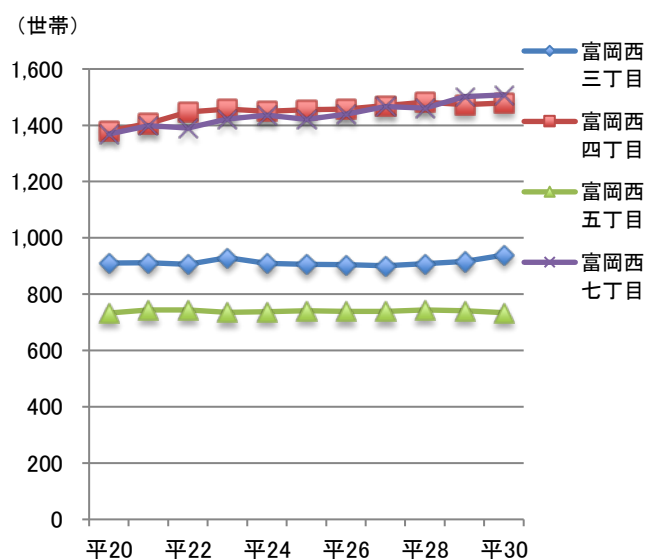
世帯規模は縮小する傾向が続いていますが、平成30年の平均世帯規模は市の平均(2.10人/世帯)を上回っており、概ね金沢区の平均(2.29人/世帯)に近い規模になっています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、30.9%で市平均(24.2%)、区の平均(28.9%)をともに上回っています。5年間で2.2%上昇しました。

0～14歳の人口(年少人口)は減少し比率も低下しました。

15～64歳の人口(生産年齢人口)は減少傾向が続いていますが、減少する傾向が弱くなっています。25～39歳の子育て世代の減少が目立ちます。(表1参照)

図3 町丁別世帯数の動向



富岡第三地区には4町丁が含まれています。

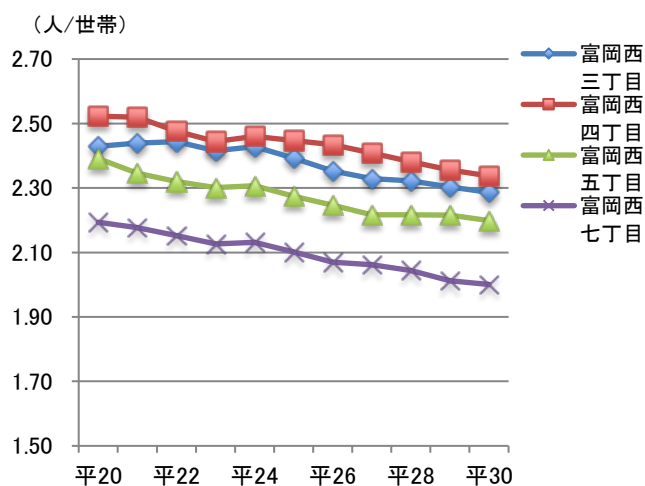
人口は、いずれの町丁とも概ね安定しています。富岡西三丁目、四丁目、七丁目で世帯数がやや増加する傾向が見られます。(図2,3参照)

平均世帯規模は4町丁とも、平成25～30年の期間とは同じような傾向で縮小しています。(図4参照)

地区内の町丁間で平均世帯規模に比較的大きな差があります。

京急富岡駅に近い富岡西七丁目で平均世帯規模が小さく2.00人/世帯になっており、市や区の平均を下回っています。(図4,表1参照)

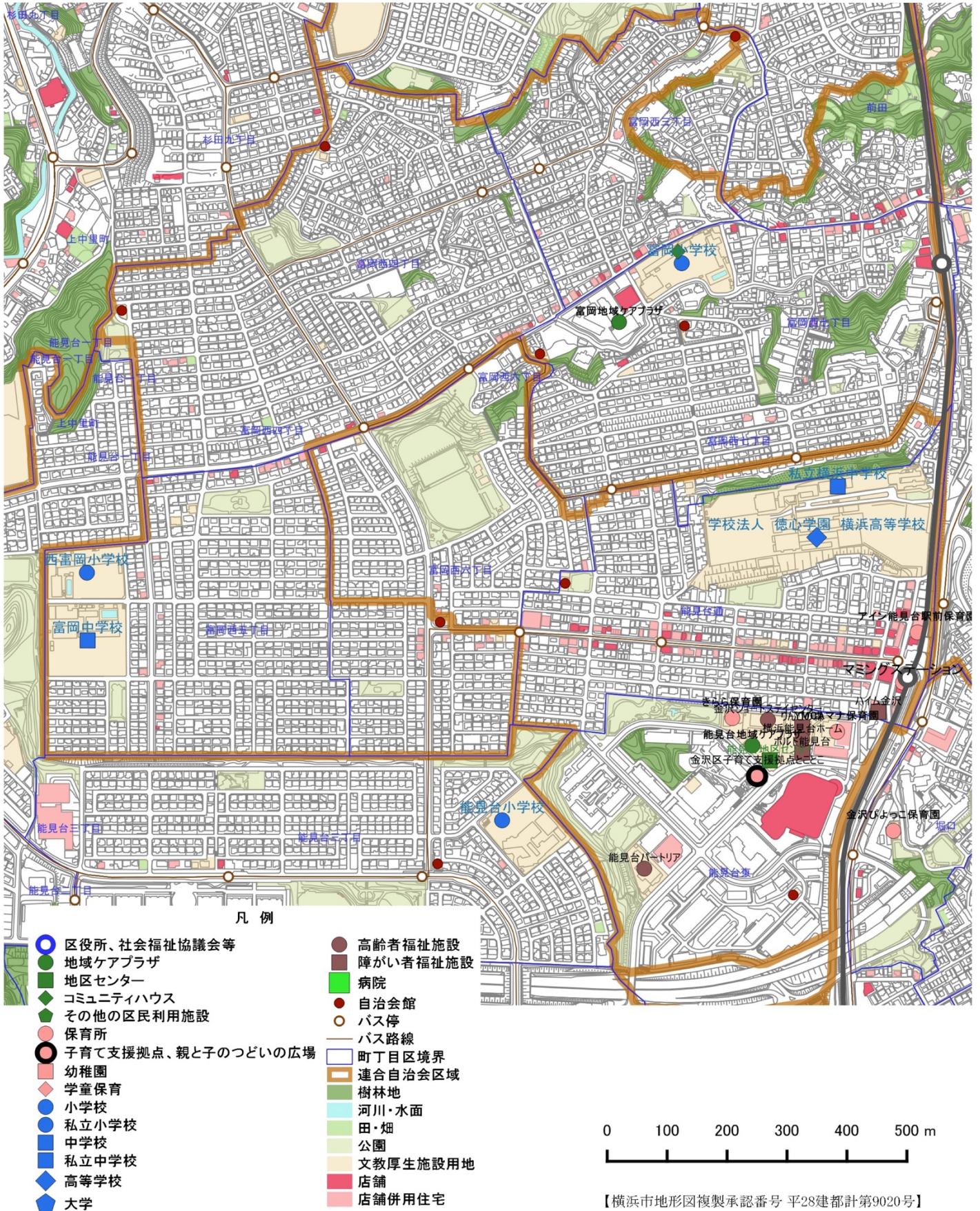
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

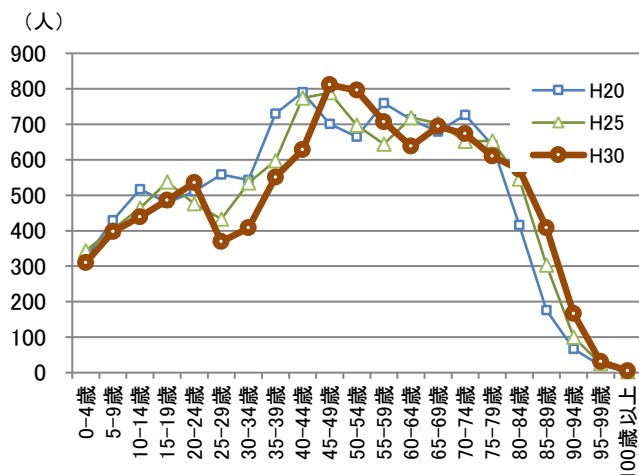
図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

図6 年齢5歳別の人口の変化



*年齢別人口は「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
*移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図7 年齢5歳別の人口の推移率

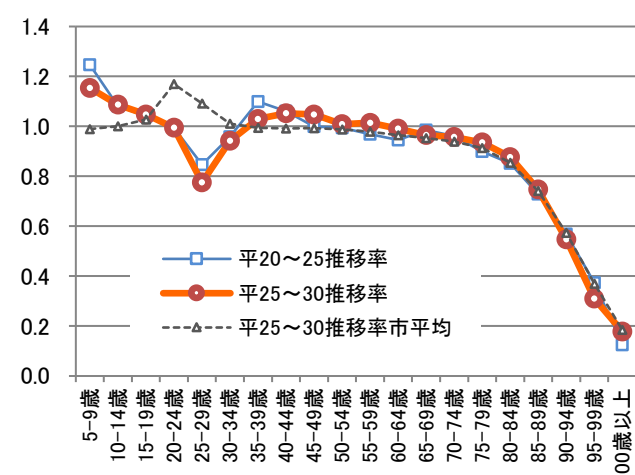
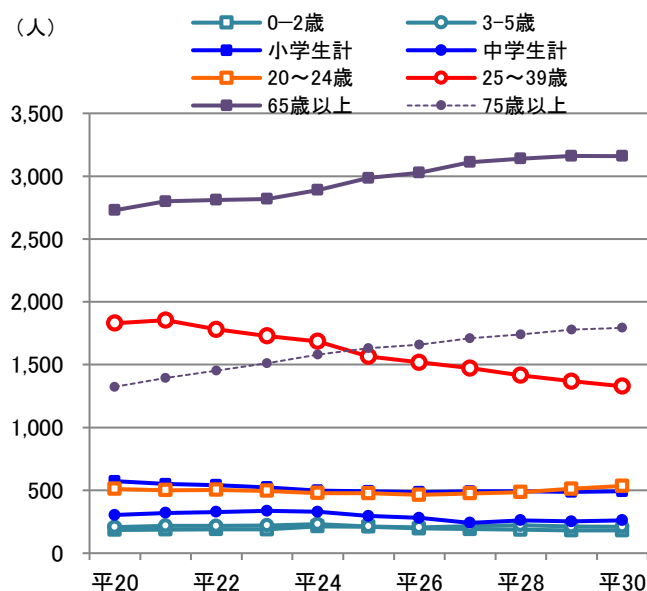


図8 年齢別人口の変化



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

富岡第三地区の年齢別人口は、40歳代が最も多くなっていますが、40～79歳までの5歳別人口が概ね700人前後となっています。(図6参照)

30歳代後半～40歳代前半と、14歳以下の推移率が1.0を上回っており転入増加する傾向があります。

一方、20歳代後半～30歳前半には転出による減少傾向がみられます。この傾向は平成20～25年と比べてやや強くなりました。(図7参照)

毎年500～600人程度の人口の転入があります。平成25～26年は転入が少なくなったため、その分人口が減少しました。その後は転入のバランスがとれています。(図9参照)

年齢5歳別の社会移動は、20歳代後半に転出超過の傾向があり、この傾向が続いていることがわかります。(図10参照)

図9 人口移動の動向

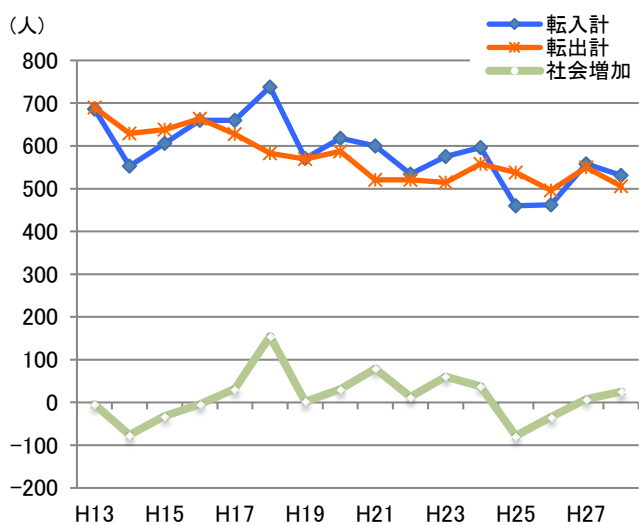
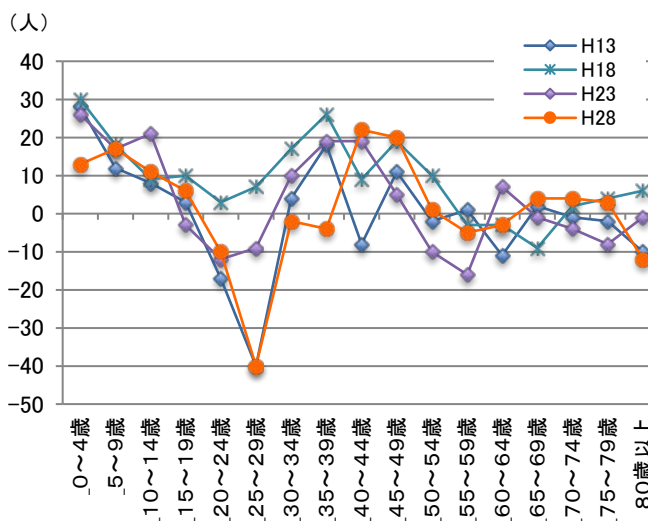


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

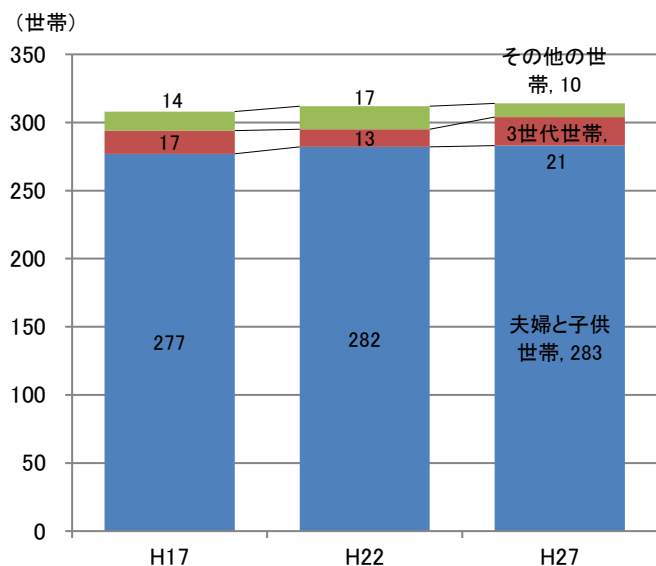


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

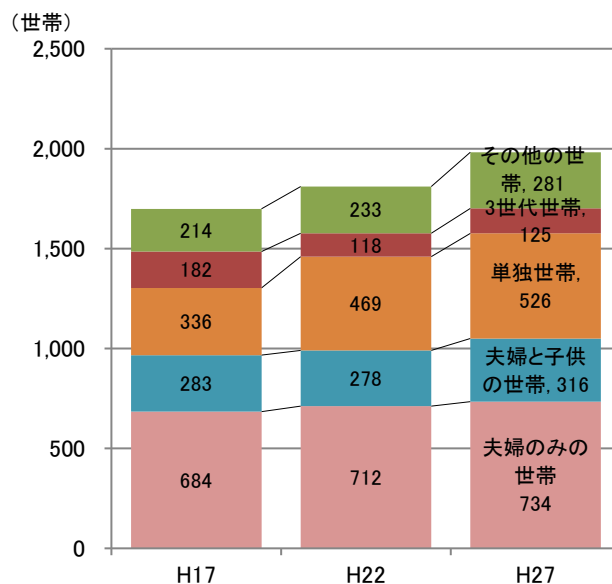


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

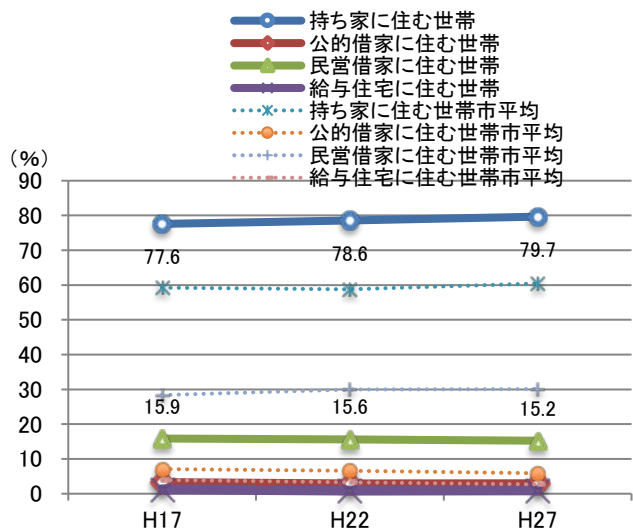


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

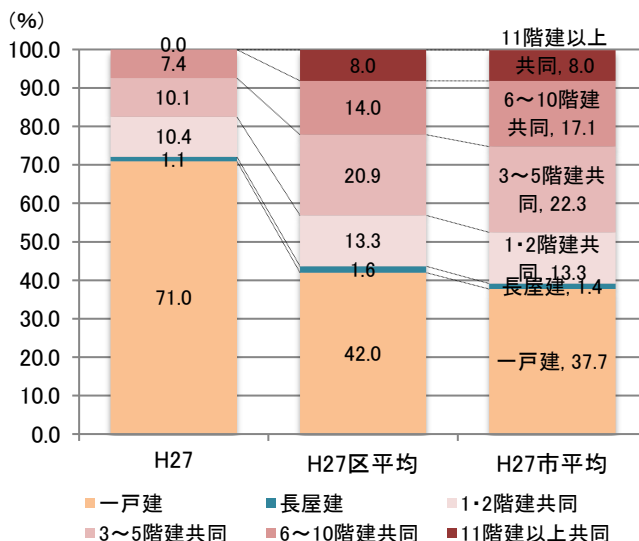


図 15 規模別世帯の動向

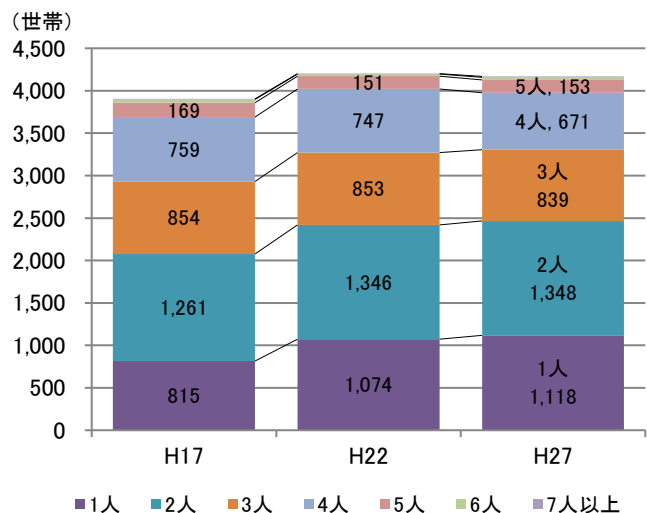
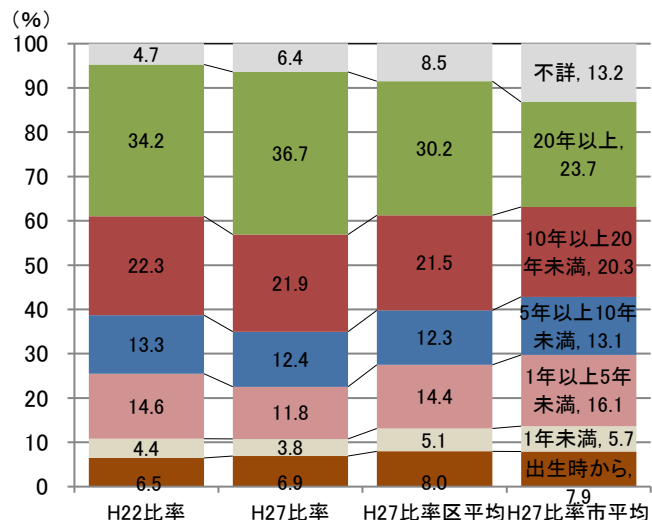


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数 (男性高齢者)	高齢独居世帯数 (女性高齢者)	高齢者のみ世帯数 (単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数 (高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	256	741	864	1,534
対世帯総数比率(%)	5.5 (区平均 4.8)	15.9 (区平均 11.7)	18.5 (区平均 14.3)	32.9 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	16.7 (区平均 17.9)	48.3 (区平均 43.4)	56.3 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

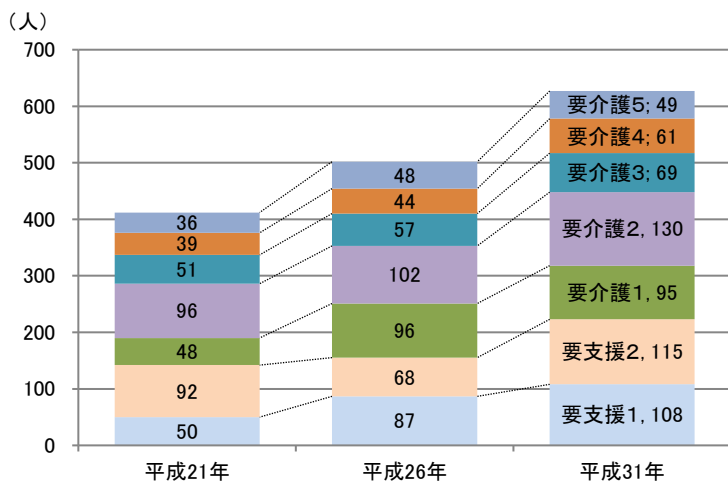
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	627	108	115	95	130	69	61	49
人口比(%)	6.14	1.06	1.13	0.93	1.27	0.68	0.60	0.48
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	17.22	18.34	15.15	20.73	11.00	9.73	7.81
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

富岡第三地区は、京急富岡駅・能見台駅から内陸側に向けて丘に形成された住宅地です。

地区の東端に京急富岡駅があります。

戸建て住宅に住む世帯が約71%を占めています。(図14参照)

また、持家に住む世帯が約80%を占め、戸建て持家が多い住宅地になっています。

民間の借家に住む世帯は約15%を占めるにすぎません。(図13参照)

居住期間が長い人が多くなっています。平成27年時点で、居住期間が「10年～20年未満」(約22%)と「20年以上」(約37%)の比率は合計すると約59%を占めます。(図16参照)

平成27年時点で、6歳未満の子供がいる世帯(約310世帯)は世帯総数(約4,170世帯)の8%です。

6歳未満の子供がいる世帯の約90%は核家族です。(図11参照)

平成17年以降、高齢者のいる世帯は増加し続けており、高齢者の単独世帯の増加が目立ちます。

平成27年で65歳以上の高齢者のいる世帯(約1,980世帯)は世帯総数の約48%を占めています。このうち約37%が高齢者の夫婦のみの世帯、約27%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の約64%を占めています。

(図12参照)

平成29年時点の高齢者のいる世帯の比率は約47%で、区の平均(約43%)を上回っています。(表2参照)

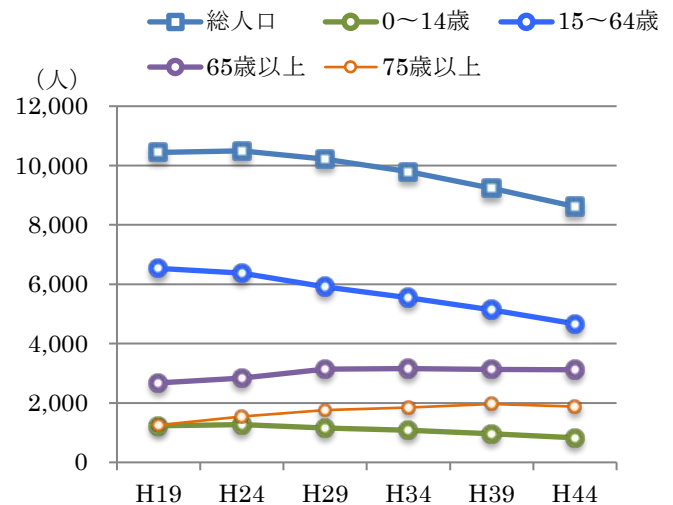
また、要介護認定者の人口比率は約5.8%で、区の平均(約4.7%)を上回っています。(表3参照)

平成24～29年の期間は、20歳代前半の人口が自立し世帯分離や転出超過することによって人口が緩やかに減少している状態です。(図6,7参照)

平成24～29年の期間の年齢別人口の変化の傾向が続くと、生産年齢人口の減少と高齢者の増加が続きます。

既に高齢人口の比率が高く、年齢別人口の偏りも小さいので、高齢化の人口や人口減少は比較的緩やかにすすむと考えられます。(図6,7,18,19参照)

図18 人口の動向と推計



*平成24～29年の年齢5歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成34年以降が推計値です。

図19 人口の動向と推計 年齢別比率

